

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472602778	事業の開始年月日	平成17年4月1日
		指定年月日	平成17年4月1日
法人名	社会福祉法人 愛翁会		
事業所名	ななかまど		
所在地	(252-0137) 相模原市緑区二本松3-8-15		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員 計	9 名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和8年2月18日	評価結果 市町村受理日	令和8年6月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、理念をすべての行動指針とし、入居者様一人ひとりに寄り添ったケアを徹底しています。ここが第二の家になるように、そう感じていただけるよう日々の食事は台所で一から手作りし、「家庭の味」「出来立ての温かさ」を大切に、旬の食材を活かした献立で、心も体も満たされる時間をお届けできるように心がけています。日常的にゆったりとした時間の流れの中で、お一人おひとりの「できること」に寄り添い、自信と尊厳を持って過ごしていただけるように心がけています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和8年3月30日	評価機関 評価決定日	令和8年5月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業所は、JR横浜線「橋本」駅南口からバスで約7分、「公園前」バス停から徒歩7分程の閑静な住宅街に立地している。鉄骨2階建ての2階に1ユニットの当グループホーム、1階に同法人が運営する小規模多機能型居宅介護事業所がある。
【地域交流】 当事業所は「地域の一員として近所づきあいを大切にします」を理念に掲げ、二本松町内会に加入している。二本松八幡宮の祭りの際は、駐車場を神輿の休憩場所として提供している。また、職員有志が月1回開催しているカフェや、1階の小規模多機能型居宅介護事業所主催の、演奏会や餅つき大会に地域住民も参加して利用者と交流している。高校の福祉科や福祉専門学校生徒の実習ならびに中学生の体験学習を受け入れている。地域包括支援センターの作品展には、実習生と作成した作品を展示するなど、地域と交流している。
【手作りの食事の提供】 食事は3食とも、当日の担当職員が事前に献立を考え、ネットスーパーで購入した食材を調理して提供している。献立は、利用者の要望を聴いたうえで、季節の物を取り入れるようにしている。「食事が手作りなので入居したい」という入居希望者もいる。ひな祭り、節分、七夕、クリスマスなどでは、行事食を提供している。食事レクリエーションでは、蒸しパンを作り利用者を楽しませている。利用者は、米とぎ、野菜の皮むき、盛り付けや食器すすぎ・拭きなどを手伝っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ななかまど
ユニット名	

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にっている	「地域の一員として近所づきあいを大切にします」と理念に掲げ、町内会に加入している	事業所では「したいことを実現するためにお手伝いする」「美味しい食事を提供する」という主旨の7項目からなる理念を掲げている。理念は、開設時に職員が話し合って策定したもので、事業所の入り口に掲示して、出勤時に必ず確認することになっている。職員は、利用者に「服は何を着たいか」「どんな手伝いがしたいか」など、支援の都度、声かけをして、意向を確認して「したいことを実現するためにお手伝いする」という理念を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園清掃に職員が参加、二本松八幡宮のお祭り時に駐車場を休憩所に提供している	事業所は、二本松八幡宮の祭りの際は、駐車場を神輿の休憩場所として提供している。「RUN伴さがみはら」に、職員と利用者が参加している。また、職員有志が月1回開催している、昼食を提供する「かまどカフェ」と、お茶を提供する「プチかまど」や、1階の小規模多機能型居宅介護事業所主催の、演奏会や餅つき大会に地域住民が参加して利用者と交流している。高校の福祉科や福祉専門学校生徒の実習ならびに中学生の体験学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や掲示板を活用し行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催する運営推進会議では、事業所からの報告と共に参加メンバーからの質問や意見、要望などを受けて、双方向的な会議となるよう配慮している	運営推進会議は、2ヶ月ごとに家族代表、町内会役員、民生委員、地域包括支援センターの職員、ボランティアをメンバーとして開催している。家族には個別に出席を依頼している。会議では、外部評価の結果も案内している。出席者からは「食材の価格が上がっているが大丈夫か」「熱中症の対策は」「感染症の状況は」など各種質問があり、案件ごとに回答している。事業所からは、空き室ができた時に、入居者の紹介依頼を行ったことがある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相模原市福祉基盤課、緑高齢障害者支援課で、運営管理などを相談している	市の緑高齢・障害者相談課には、運営推進会議の報告書を持参して、事業所の実情や取組みを伝えているほか、利用者の介護保険要介護認定申請代行で市役所を訪問した際に、助言や指導を受けている。緑生活支援課とは、担当者が来所した際や、電話連絡時に、生活保護費を受給している利用者の状況に関する情報共有や相談をしている。市のグループホーム連絡会に参加して、行政から介護保険の改定に関する情報などを得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会活動を通じて、毎月行われる職員会議でディスカッションを行うなどして取り組んでいる	身体拘束防止委員会は、グループホーム会議の中で、管理者と職員2名をメンバーとして、研修内容の検討などをテーマに開催している。会議に出席していない職員には、議事録で内容を周知している。管理者は、「ちょっと待ってて」と言う際は「どうかしましたか」などの言葉に置き換えるように指導している。事業所では、日中はドアを開けた際にはチャイムが鳴るようにして出入りを確認することに留め、利用者に自由に行動してもらうようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止検討委員会活動を通じて、毎月行われる職員会議でディスカッションを行うなどして取り組んでいる	虐待防止に関する委員会ならびに研修は、身体拘束防止に関する委員会と同様の方法で実施している。また、県の虐待防止に向けた自己点検を実施して振り返りを行っている。不適切なケアについては、グループホーム会議などで話し合っている。管理者は、研修で「拒否」や「訴える」という表現は違和感があると講師が言っていたことを引き合いに出して、日常で使う言葉を使って、違和感を与えないよう、職員にアドバイスしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護委員会活動を通じて、学ぶ機会をもっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明し、質疑に答えながら理解を図っている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時または電話での聞き取りを行っている	家族の意見・要望は、来所時や電話連絡などで日常的に把握して運営に活かしている。家族が来所した際は、管理者が極力話しかけるようにしている。家族からの意見・要望は、口頭や連絡帳などで情報共有している。家族から、事業所が貸し出している加湿器から蒸気が出すぎるので、他の物に変えて欲しい、という要望があり交換している。また、居室内にベンチを置きたい、という要望があり承諾している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談やその都度話し合いの場を設けている	職員の意見・提案は、管理者が日々の会話を中心に、毎月のグループホーム会議などで把握し、運営に反映している。会議に際して、提案や議題を事前に聴いている。個人面談を年に2回実施して意見や希望などを聴いている。また、理事長が来所した際に、職員の意見などを聴く機会を設けている。職員から、「蒸しパンを提供したいので、材料を購入したい」「利用者に、食事の盛り付けを手伝ってもらって良いか」などの提案があり、採用した。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の個別面談やその都度話し合いの場を設けている	法人は、キャリアパスを策定して、職員が将来的に目指す姿を明示している。また、職員が、介護支援専門員・認知症介護実践者研修などを受講する場合は、勤務扱いとして、受講料・交通費の一部を補助している。正職員については、誕生日休暇や年末年始の4日間の特別休暇を付与する制度がある。事業所は、生産性向上委員会を開催している。食材の購入を買い出しからネットスーパーに変更したことで、1時間の時短を実現している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修制度を設け、可能な時に自主的に受けることが出来るようにしている	職員は、事業所の年間研修計画に基づき、研修業者のオンライン研修で、身体拘束・虐待防止、BCP、感染症予防、事故防止、介護予防、ハラスメント、倫理・法令遵守、接遇などの研修を受講している。研修を受講した職員は、研修報告を作成し管理者に提出している。新入職員に対しては、管理者が、理念、接遇や身体拘束などの研修を実施した後、先輩職員がOJTを行い育成している。OJTの期間は、管理者が当該職員の経験などを基に決めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム部会に積極的に参加している		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や前利用サービスから情報をもらうなどして、ご本人のことを深く理解できる様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入居後においても、ご家族の困りごとを把握できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何でも手伝うのではなく、出来ること出来ないことを様子を見ながら判断している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意分野や出来ることを見極めながら、一緒に行うなどして、感謝を伝え関係を築いている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月職員からの手書きの一言を添えたお便りの送付などを行い、必要であれば電話連絡も行っている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を通して、馴染みの方々との交流を行っている	事業所では、入居時のアセスメントや家族からの情報で、利用者の馴染みの関係を把握している。電話や手紙の取り次ぎや、携帯電話の操作・充電の支援も行っている。家族が持参する馴染みのあんぱん、羊羹、ゼリーなどの食べ物の取り次ぎ、好みの化粧品、シャンプーなどの取次ぎや購入を支援している。母の日に家族が送付してきたカーネーションを取り次ぎ、写真を家族に送付したことがある。昔からの習慣で、編み物を継続している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団の中での関係性等に配慮し、孤立しないように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	頻繁ではないが電話連絡したり、年賀状等のやりとりはしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の聞き取りや事前に得た情報だけでなく、日々の行動や表情からも汲み取り把握するよう努めている	利用者の「できること」「やりたいこと」は、入居前に「アセスメントシート」を基に、家族に利用者の今までの習慣、馴染みのことなどを聴いて把握している。また、入所前の介護支援専門員から、利用者に関する情報を確認している。入居後の定期的なアセスメントは、6ヶ月ごとに行っている。事業所では、把握した要望を基に、食器すすぎ、食器拭き、テレビ観賞などの内容を、介護計画の支援内容に反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族かやご本人からの聞き取りに加え、前サービス事業所からの情報なども加えご本人の全体像把握に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録に記録を残して現状の把握に努めている			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、その時点に沿った介護計画を作成している	介護計画は、アセスメントとモニタリングを基に、原則6ヶ月ごとに見直しているが、状態により随時見直している。家族から「なるべく歩ける状態を維持して欲しい」という要望があり、計画に「排泄は一番遠いトイレに行ってもらおう」という内容を取り入れた事例がある。見直した内容は、職員連絡帳やタブレットの申し送りで周知している。モニタリングは、計画作成担当者が、職員の意見やケア記録を基に計画の見直し時に実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、職員交代時に口頭での申し送を行い情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望、その時の必要に応じて訪問マッサージや訪問歯科診療を利用している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々との交流や、地域の催しに出来る限り参加している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及び家族の希望のかかりつけ医への受診は継続し結果を主治医でもある相模原東クリニックにも情報提供している	利用者全員が、24時間オンコール体制の協力医療機関（内科）をかかりつけ医として契約し、月2回の訪問診療を受診している。かかりつけ医とは、病歴などの情報共有や急変時の対応の確認をしている。夜間に緊急な対応が必要な場合は、かかりつけ医が提携している医師が来所し往診することになっている。皮膚科、眼科などの専門医への通院には、原則、家族が付き添っている。訪問マッサージと契約している利用者もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医と24時間オンコール体制をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	紹介状、介護サマリーの用意の支援、入院中は医療スタッフと電話連絡などで関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化の指針」を作成し入居時や必要時に出来ること、出来ないことをお伝えして話し合いながら支援している	事業所では、入居時に「重度化の指針」を説明して同意を得ている。家族のほとんどが事業所での看取りを希望している。利用者が重度化した場合、家族と医療関係者、管理者で「人生会議」を開催して、看取り支援をするか決めている。看取り後は、会議で、職員の心のケアや、良かった点や改善点などの話し合いをしている。また、居室に利用者の荷物が残っている間は、写真を飾り、生花を手向け、菓子を備えて弔っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、会議の場などで説、理解を深めている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、会議の場などで説、理解を深めている	事業所は、夜間想定訓練も含め、火災を想定した避難訓練を年2回実施している。年1回は、消防署の職員に立ち会ってもらい、訓練終了後に講評を受けている。避難訓練には、地域住民にも参加してもらっている。また、立地などの実情に基づいたBCP（事業継続計画）を策定して、研修や訓練を実施している。災害用備蓄品はリストを作成し、職員を含む3日分の食料と飲料水を確保している。また、カセットコンロ・ボンベなどの熱源も整備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者への対応が基本で、ご本人の自尊心に配慮しながら対応に努めている	職員は、接遇、倫理・法令遵守、個人情報保護などの研修を受講している。事業所では「衣類の選択は利用者と一緒に決める」「起床・就寝の時間は利用者の自由意志に任せる」「入浴、排泄などは無理強いしない」など、利用者の自己決定権を尊重している。また、入浴・排泄の際は、ドアやカーテンは必ず閉めたり、入浴時に身体を洗っている時は前にタオルを置いたり、利用者の呼称はイニシャルにしたりして、プライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人の力に合わせ、可能な限り対応するよう努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意向を聞きつつ、可能な限り対応するよう努めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を聞きつつ、可能な限り対応するよう努めている			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の力に合わせ野菜の皮むき、盛り付け等、職員と一緒にやっている	事業所では、手作りの食事に拘っている。当日の担当職員が、事前に献立を考え、ネットスーパーで購入した食材を調理して提供している。献立は、利用者の要望を聴いたうえで、季節の物を取り入れるようにしている。行事食として「ひな祭り」に、ちらし寿司、蛤のお吸い物、「節分」に、ちらし寿司、煮豆、けんちん汁、「七夕」に、天ぷら、そうめんなどを提供している。利用者は、米とぎ、野菜の皮むき、盛り付けや、食器すすぎ・拭きなどを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録などをもとに、嗜好やタイミング、量などを把握し情報を共有している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいやブラッシングを行っている		

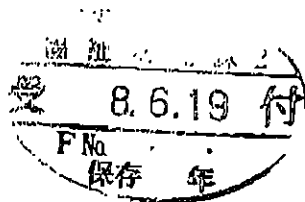
自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を可能な限り基本として、チェック表を使い支援している	事業所は「できる限りトイレで排泄できるよう支援する」という方針である。常時、おむつを使用している利用者2名は、ベッド上で排泄支援をしている。おむつ使用に変更するかの判断は、立位が困難になった場合に、カンファレンスで検討している。その他の利用者は、支援を受けずにトイレで排泄できるため、排泄の間隔が空いた場合など気になる時に声掛けしている。夜間は、利用者が起きた時のベッドの鈴の音に基づき、トイレに誘導している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時のヨーグルト摂取や、日中の体操の実施など、なるべく薬に頼らないよう努力している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	必ず希望に添えるわけではないが、可能な限り楽しんでもらえるように対応している	週2回、午前と午後の入浴したい時間に入浴できるようにしている。当日は、前回の入浴からの間隔を確認して入浴する利用者を決めている。湯の温度や湯に浸かる時間などの希望を聞いて、気持ちよく入浴してもらっている。体調の悪い利用者は、日時の変更や清拭で対応している。利用者は、職員との会話や菖蒲湯、柚子湯を楽しんでいる。お気に入りのシャンプーを使用する利用者もいる。リラックスして歌を唄う利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の生活リズムを崩さないように、体調や様子を見ながら支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬関係の書類」ファイルを作成し、常に確認できる状態にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日をお祝いしたり季節を感じることは出来る行事食を提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内を散歩したり、ベランダでの外気浴を楽しんでいる。	天気の良い日には、事業所周辺の散歩や、庭での花見に出かけている。ベランダで外気浴を楽しむ利用者もいる。車いすの利用者の散歩や、非日常的な外出は行えていない。家族の支援で、外食や自宅、地方での同窓会などに出かけた利用者がある。事業所では、家族支援での外出の際には、事前に排泄を済ませたり、パッドや薬、マスクなどを渡したりして、支援をしている。利用者の外出歴は、タブレットや事業日誌で管理している。	外出が、事業所の近隣に限られています。家族の支援を含めた取り組みの強化により、外出の機会を増やすことが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば支援しているが、現在はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望があった際は職員が支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	TVを点けっぱなしにするのではなく静かな時間を作ったり温度調整などを行い快適に過ごせるよう努めている。	リビングは、大きな窓があり採光が良く明るい。採光が眩しい時は、カーテンで調整している。日めくりカレンダーや、絵や大きな文字でのトイレの表示などで見当識に配慮している。キッチンでは食事を手作りすることで、利用者の五感を刺激している。温度・湿度管理は、エアコンと加湿器で行っている。換気は、日に4回、窓を開けるほか、換気扇を常時稼働させて行っている。リビングや廊下の壁には、行事の写真や折り紙の作品などを飾っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置するなどして一人になる事もできる場所作りに努めている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は、ご本人が持ち込みをし、写真などの愛用品も持参してもらっている。	居室には、ベッド、エアコン、照明器具、クローゼットを備え付けている。冬季には、事業所の加湿器を貸し出している。自宅から居室への持ち込みに関して、危険物や冷蔵庫以外、特段の制限はしていないことを入居時に伝えている。利用者は、タンス、椅子、机、テレビ、遺影、書、ぬいぐるみや、家族の写真などを自由に持ち込んでいる。利用者は、日記を書いたり、テレビ観賞をしたりして、思い思いにくつろいで過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は、バリアフリーで手すりの設置により、安心して歩けるようになっており、歩けない方でも車いすでの移動がしやすくなっている。		



目 標 達 成 計 画

事業所名

ななかまど

作成日

2026・6・14

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	外出が事業所の近隣に限られています。家族の支援を含めた取り組みの強化により、外出の機会を増やすことが期待されます。	限られた人員の中でも安全に配慮し、屋外の空気や季節感に触れてすごす機会を定期的に確保する。	人員配置の状況や入居者様の身体状況（車いす中心）を考慮し、敷地内での外気浴や車いすのまま一对一での5分間散歩を行う。	12か月
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。